

日本母性看護学会ニュースレター

The Japan Academy of Maternity Nursing Newsletter No.4

発行 日本母性看護学会 事務局: 〒514-0116 三重県津市夢が丘1-1-1 三重県立看護大学内

日本母性看護学会第5回学術集会報告

第5回学術集会長 岡部恵子(山梨県立看護大学)

第5回日本母性看護学会学術集会は、6月28日(土)~29日(日)の2日間、山梨県立看護大学において行われました。特別講演や理事長講演の講師、ワークショップの話題提供者、そして一般口演への研究のご報告者、また座長、一般口演の査読者として、そして学術集会にご参加下さいました皆様といった多くの方々のご協力を頂き、無事、終了することができました。心から感謝申しあげます。参加者数は234人(会員175人、学生12人、ボランティア47人)でした。

学術集会のメインテーマは「“産む、生まれる、そして“生きる”を支える看護の役割」とし、広く母性看護の役割を考えることを目的と、会長講演では「現代の社会問題と母性看護の果たす役割」として話させて頂きました。また、本年は、第5回という一区切りの時かと考え、理事長講演テーマを「日本母性看護学会への今後の期待」とさせて頂き、前原理事長からは「これから学会は、閉鎖性をなくし社会に開かれ、社会に貢献する学会でありたい」「社会に責任ある発言ができる学会をめざそう」と学会のあり方を力強く示して頂きました。特別講演では、浅井美智子氏(大阪府立大学)より「ナショナリズムと母性」として、「母性」なる言葉の抱える歴史が語られ、日頃とは異なる視点からの話は種々の面で刺激があったとの声をお聞きしました。ワークショップは、ピアカウンセリング、遺伝看護、看護研究、カルテの電子化といった4つのテーマにて行われ、いずれのテーマにおいても、全員参加の真剣な討論が行われ、有意義であったとの声をお聞きしました。一般口演は、質疑応答の時間を増やしたいと考え、1題15分とし、父性、不妊、セクユアリティ、妊娠期、分娩・産褥期、女性と健康の6群に分かれ18題の発表でした。研究の確かなレベルアップを伺うことができましたが、実践現場からのご報告がもっと増えていくことが大切かと考えます。

最後に、あらためて多くの方々に感謝を申しあげます。(平成15年8月5日)



学術集会長講演 「現代の社会問題に母性看護の果たす役割」岡部恵子会長



特別講演 「ナショナリズムと母性」
大阪府立大学 浅井美智子氏

日本母性看護学会第5回学術集会学会参加記

九州看護福祉大学看護福祉学部看護福祉学科
赤松房子

6月28・29日の2日間にわたって行われた第5回日本母性看護学会学術集会に参加しました。遙か山梨を目指して熊本を発ち、バス・飛行機・JRと乗り継ぎながら約6時間以上の道のりを経て、辿り着いた甲府駅で私を迎えてくれたのは、武田信玄公の銅像…周囲を山に囲まれた長閑な雰囲気、温度・湿度ともになんとなく熊本に近いものを感じながら、会場の山梨県立看護大学に向かいました。今年3月に学会員になったばかりの私にとってこの学会に参加するのは初めて 山梨の地を訪れたのも初めて でした。

学会は、初日の理事長・会長講演に続き、「父性」と「不妊」の一般演題発表が行われ、その後、4つの会場に分かれてのワークショップ、2日目には「妊娠期」、「セクシャリティ」、「分娩・産褥期」、「女性と健康」の4群に分かれた一般演題発表のあと、特別講演が行われました。それぞれの会場では、限られた時間を惜しみつつ、貴重な演題が発表され、そのあとには数々の質問や活発な意見が交わされるなど、会員の方々の意識の高さと、そこから放たれる熱気を肌で感じることができ、心地良い(?)刺激を受けることができました。幸運にも「不妊」の群では、私も発表の機会を与えて頂きましたが…多くの方々の発表を伺いながら、まだまだ未熟な自分と今後も自己研鑽が必要なことを痛感した次第です。懇親会には残念ながら出席していないのですが

なんでもすごいフランス料理だったらしい 山梨での2日間を通して、母性看護に携わる諸姉とお会いでき、お話しする機会が持てたことをとても光栄に思っています。今回のメインテーマでもあった『“産む”、“生まれる”、そして“生きる”を支える看護の役割』…そう、私たちに課された役割は大きいということを心に焼きつけて、山梨での2日間を終えることができたのも皆様のお陰かもしれません。事務局およびの関係者の皆様、参加者の皆様…本当にお疲れ様でした。

ワークショップ「周産期医療の中で求められる遺伝看護の今後」に参加して

三重県立看護大学看護学部 二村良子

今回、私は第1日目に行なわれましたワークショップの「周産期医療の中で求められる遺伝看護の今後」に参加させていただきました。これは日

本遺伝看護研究会のメンバーである3名の方たちが、それぞれの活動場所である大学病院、総合病院、産婦人科クリニックにおける周産期の遺伝看護活動を報告してくださいました。

遺伝カウンセリングの過程においてどのようにことに注意を払いながら、実際カウンセリングは行なわれているかという実践の中からのお話であり、とてもわかりやすかったです。また、今回のワークショップでは参加者全員がペアとなってナース役またはクライエント役になり、「高齢妊婦の羊水検査の相談」という比較的日常で遭遇するとの多い設定でロールプレイを行ないました。それぞれがその役割になりきって、真剣に、しかし、どこか楽しんで取り組んでいました。ロールプレイ後はお互いにチェックリストを用いて評価し、フィードバックしました。ナース役ばかりが話しをしていたりとか、クライエント役では、羊水検査の相談とわかっていても、クライエント自身が本当に決定して相談しているのかという疑問も出了しました。とても充実した時間を過ごすことができ、欲を言えば、ロールプレイしたことをもとに、もっと他のかたたちとディスカッションできる時間があったらと思いました。今回のようにワークショップは、お互いが身近に意見交換できるので、とても有意義だと感じ、他のワークショップにも参加したかったのですが、体が一つしかないが残念でした。来年もこのようなワークショップの開催を期待しています。



ワークショップ4 「

周産期医療の中で求められる遺伝看護の今後」

「学会に参加して」

国立甲府病院 窪田 真佐美

今回、初めて日本母性看護学会学術集会に参加させてもらい、多くの学びを得ることが出来ました。

学術集会を運営していく立場でしたが、「父性」「妊娠・分娩」という、現在携わっている分野の群に参加でき、数多くの研究がされ、自分自身も今後の看護に少しでも活かしていけたらと、とても興味深く聴くことが出来ました。

また、ワークショップでは、ワークショップに参加することもはじめてで、「ピアカウンセリング」もはじめて知る内容でしたが、実際にロールプレイを展開しながら話を進めていくことで、技法など、はじめてでも理解することができました。特に十代への性教育は、注目を浴びてきている分野であり、母性看護に携わっている私達にとっても、興味深く且つ大切な内容と感じました。ロールプレイ自体に、参加しているわけではありませんでしたが、自分自身がその中に入り、一緒に考えているようでした。このようなワークショップは、学術集会に参加している人達に問題提起ができる、次の研究へと展開していくけるのだと感じました。また、学術集会を運営していく立場では、事前準備の必要性を強く感じました。今回、実行委員として、何の心配もなく、予定通りに行動できたのは、事前に当日の進行を予測し、それに見合った資料が作られていたことで、スムーズな学術集会の進行が図れたのではないかと思いました。また、このような事前準備があるからこそ、多くの研究の発表の場ができ、研究も進めていくけるのだと感じました。

今回、学術集会に参加し、「母性」という大きな枠組みの中に、さまざまな視点があり、多くの研究がされていること、また、さらに研究が必要であることを改めて感じました。今後、このような機会があったらできるだけ参加していきたいと思います。



ワークショップ1
「思春期の性とピアカウンセリング」

ワ - クショップ「周産期における電子カルテ化」に参加して 中央病院総合母子周産期センター2C病棟 坂本富子

NTT 東日本関東病院の周産期における電子カルテの取り組みについて話しがあり、プログラムから導入までの段階に入るまで一年間という短時間で作り上げていた。電子カルテのメリットとして事故防止になること、医師と看護師間で共通な問題について叙述していることで医療の質の向上につながること、看護の科学的な裏付け・データ分析・動いている情報を見落とさないで常に患者にとって看護とはを追求していくことなど。

倫理的配慮については、セキュリティの問題など整備されていた。誰が何秒間、電子カルテを開いたか記録が残る。必要な情報を確認し、必要以外の情報は開かないモラルを厳守する。看護計画についても外来から継続的に関わりが行われていた。

ワークショップに参加した方々の中では、電子カルテの導入がされている病院はなく、自分たちの問題や疑問、入力に費やす時間、処置や検査の実施漏れをなくすこと、標準看護計画から個別性を引き出すことなどの疑問を NTT 東日本関東病院の葛西圭子先生に、直接、お聞きすることができて満足感があった。

母性看護に活用されている電子カルテの最先端のお話が聞けて、当院で将来的に導入される電子カルテ化の期待も広がり多くの刺激を受けたワークショップでした。



ワークショップ2
「周産期における
電子カルテ」



ワークショップ3
「母性看護学研究
と質的研究方法論」

報告 「女性と子どもをタバコから守るために21世紀の環境をつくろう！」

大阪府立看護大学看護学部 工藤里香

去る平成15年11月3日(祝)に、性と健康を考える女性専門家の会近畿支部主催のシンポジウム「女性と子どもをタバコから守るために21世紀の環境をつくろう！」が、日本母性看護学会の後援で行われました。当日は大雨にも関わらず、87名の参加者があり、大盛況でした。

日本では、今年5月の健康増進法施行、7月の人事院からの職場における喫煙対策新指針と、環境の禁煙化が急速に進んでいます。この機会に当会では、昨年のプレスセミナー「禁煙は自立と思いやり～女性と子どもをタバコから守ろう」に引き続き、タバコシンポジウムを開催しました。今回は特に子どもの喫煙をめぐる状況の変化や、女性の喫煙に対するGender Sensitiveなアプローチに焦点をあてました。

末原紀美代近畿支部長の「大阪府立看護大学での禁煙化 -これまでとこれから-」では、医療職

者を育てる環境の禁煙化。小西明美先生(小張総合病院健康管理部部長)の「女性と喫煙～性差医療の視点から」では、女性の喫煙は「若年で、なんとなく始まり、正しい情報が知らされないまま継続する」そして「ひとたび喫煙が習慣になると、ニコチン依存と習慣性依存のために、やめるのが困難になる」こと。高橋裕子先生(奈良女子大学保健管理センター教授)の「子どもの喫煙と学校の禁煙化～成功例に学ぶ」では、ニコチンパッチの有効性、子どもの喫煙の深刻さ、分煙ではなく禁煙が重要であることが示されました。

参加された方からは、環境(自動販売機の撤廃なども含めて)の重要性、喫煙による健康への害を正確に伝えていくことの大切さ、ニコチンパッチの使用の検討など、様々な感想が聞かれました。このシンポジウムをきっかけに、女性と子どもがタバコから守られる環境作りが一層進むよう、これからも活動していきます。性と健康を考える女性専門家の会 近畿支部スタッフ一同

事務局からのお知らせ

平成14年2月26日現在の本会会員数は268名(平成15年9月26日現在)となりました。本学会への入会申し込みについては、学会事務局までお問い合わせください。

編集委員からのお知らせ

日本母性看護学会誌投稿規程が一部改正されました。

涉外・広報委員からのお知らせ

日本母性看護学会の入会案内冊子ができました。どうぞ、ご活用ください。

ロゴマークについて：今回本会の入会案内冊子作成に当たりシンボルマークが必要になりました。委員で検討した結果、対象とする人の「生命の始まり」に絞り、ヒト受精卵の子宫内着床間近の胞胚をアレンジしました。ホームページの開設も準備中です。ホームページに掲載してほしい内容など、涉外委員までよろしくお願ひします。

第6回日本母性看護学会学術集会のご案内

小松美穂子会長(茨城県立医療大学)のもと、平成16年6月19日(土)20日(日)「臨床の知に学ぶ 母性看護の発展に向けて」をテーマに第6回日本母性看護学会学術集会が開催されます。詳しくは茨城県立医療大学ホームページ内「日本母性看護学会学術集会」のホームページ <http://www.jsmn.nurse.ipu.ac.jp/>をご覧ください。

編集後記：ニュースレター第4号の発行が大幅に遅れたことをお詫び申し上げます。第5回学術集会の学会参加記などを書いてくださった皆様匂を過ぎてしまったことをお詫びいたします。

今後もニュースレターの充実を図っていきたいと考えております。会員に向けて発信したいこと、日本母性看護学会の発展に向けて、会員の皆様からの記事の投稿をお待ちしております。(大平)

発行人：前原澄子

編集担当者：末原紀美代 喜多淳子 成田 伸
大平光子、跡上富美、工藤里香
斎藤良子

発行所：日本母性看護学会

事務局：〒514-0116
三重県津市夢が丘1-1-1
三重県立看護大学内
TEL 058-233-5605/ FAX059-233-5666